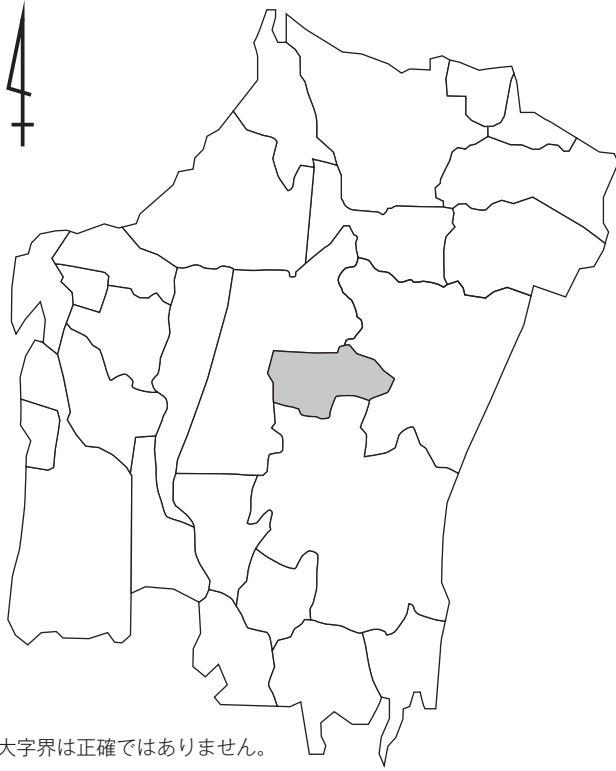


# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 上三川の地域と歴史 しらさぎ

しらさぎは、上三川町のほぼ中央に位置しており、地区の東側を磯川が南流し、商業地、住宅地として町の中核をなしています。「しらさぎ」という名称は、上三川町並木山王土地区画整理事業によって生まれた地名です。この事業により、平成11年9月18日、

大字上郷、大字上三川、大字上蒲生の一部が、「しらさぎ」と改められました。ちなみに、「しらさぎ」には大字が付きません。なぜなら大字は、明治22年(1889)の市町村制の施行に伴い、旧町村名を残したのだからです。そのため、「しらさぎ」は大字



※大字界は正確ではありません。

の付かない地名なのです。

さて、しらさぎは鬼怒川と田川に挟まれた台地上にあり、古来より人々が暮らしていました。そのため、先に述べた土地区画整理事業に際しては、遺跡の発掘調査が行われています。その中の代表的な遺跡が、島田遺跡(しらさぎ3丁目)です。島田遺跡は、昭和57年から平成4年まで発掘調査が行われ、旧石器時代から縄文時代、古墳時代、奈良平安時代までの様々な時代の遺構と遺物が発見されました。見つかった資料は、当時の北関東に住む人々の様相を伝えてくれる貴重な資料となりました。

しらさぎには、町を代表する神社である白鷺神社が鎮座しています。延暦2年(783)、日本武尊を主神として国守平松下野守が創建したと伝えられます。康暦2年(1380)の袋原合戦における小山氏政の上三川城攻めの折、明神の森から一斉に白鷺の群れが飛び立ちました。これを森の中に伏兵がいると勸

違ひし、氏政軍は攻撃を諦めて引き返していきました。これは明神の加護によるものとして、以降、白鷺神社と称されるようになりました。平成元年から大改修を行い、現在の姿となりました。

白鷺神社の東側には、上三川城主・今泉氏の菩提寺である長泉寺が座しています。永正元年(1504)、今泉盛朝による開山で、本尊十一面観音菩薩坐像は県指定文化

財となっています。慶長2年(1597)年の上三川城の落城とともに荒廃しましたが、元和2年(1616)に那須烏山城主・成田氏宗により再建されて現在に至ります。なお、境内にある樹高約18mのコウヤマキは、初代住職の手植えによるものと伝えられます。

近年新しく誕生したしらさぎですが、各所に多くの歴史が刻まれています。



島田遺跡出土の縄文土器